

C-51 ギャザーに関する研究(オ3報) 編地について
東海学園女短大 ○辻 啓子 伊藤きよ子 加藤典子 西條セツ

目的 前報では織物を主体に、後身頃にヨークをつけ、ギャザーを入れる場合をとりあげ、ドレーパリの長さ、ギャザー分量の差によって表現されるドレープの効果と素材物性との関係を検討し、曲げ剛性、せん断剛性、カバーファクター、ドレープ係数が大きな影響を与える因子であることを報告した。本報では編地について検討を重ねたので報告する。

方法 1). 素材は市販の中から一般に利用されている編地10種を選んだ。2). ドレーパリは、幅は背幅(34)+ゆとり(2)の36cm、長さは服種の形態からヨークを除いた55、90cmの2種とし、ギャザー分量は1.25、1.5、1.75、2、2.25倍の5種である。ギャザーはミシン縫い(6目/cm)し、均一に入れた。3). ドレーパリの裾のひろがり寸法、ハム曲線のノード形状を観察し、素材物性との関係を検討した。4). 素材別、長さ別にギャザー分量に対する評価を10名のパネルにより、美しさ、用途の二面から順位法による官能検査を試みた。

結果 1). ドレーパリの裾のひろがり寸法、ハム曲線のノード形状には素材物性特に曲げ剛性、ドレープ係数、伸長回復率の影響は大きく、織物にはみられなかった厚さの影響を及ぼす因子であった。2). ギャザー分量、長さが増大するとハム曲線のノード数、振幅は大きくなる傾向がみられた。3). ギャザー分量に対する評価は全てに一致性の係数は有意で、美しさでは1.75、2倍が、用途を意図した場合は1.5、2倍が高評価され、前者では試料に、後者では長さにより評価に差がみられた。